

日本遺産の岡遺跡・丹南遺跡

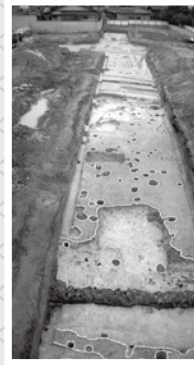
西田 孝司(松原市文化財保護審議会)



▲河内鑄物師工房発掘地から、今池上に建つ丹南町会総合会館を望む(丹南4丁目)



▲室町時代の河内鑄物師工房調査地(右)と遺物出土状況(左)(松原市教育委員会提供)



▲「岡2丁目所在遺跡」説明板(岡2丁目・大阪府宮松原岡住宅内)

平安時代末期から室町時代
竹内街道沿いの河内鑄物師

平成二十九年(二〇一七)四月、二四〇〇年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」く竹内街道・横大路(大道)くが日本遺産に認定されたことを、ご存知の方も多いと思います。市域南部の岡・立部地区を東西に走る竹内街道は、七世紀の飛鳥時代に敷設されたと言われています。

ですから、私たちは日本遺産となったのは、難波と飛鳥(奈良)を結ぶ竹内街道とよばれる古道だけだと思います。本道以外にも、構成文化財として、松原には天美西の大和川今池遺跡で見つかった「難波京朱雀大路・難波大道」、岡・丹南の「岡遺跡・丹南遺跡」、上田の「柴籬神社」も日本遺産なのです。日本遺産とは、文化庁が認定・所管したものです。「日本の文化・伝統を語るストーリー」を認定。有形・無形の様々な文化財群を、地域が主体となつて総合的に整備・活用し、国内・海外へ戦略的に発信していくことで、地域の活性化を図ることを目的とする」と位置づけています。

竹内街道・横大路(大道)は、大阪府・堺市・松原市・羽曳野市・太子町・葛城市・大和高田市・橿原市・桜井市・明日香村を結んでいます。このうち、松原市域では竹内街道をはさ

んで、旧石器時代から近世に至る複合遺跡である岡遺跡と丹南遺跡が広がっています。

岡遺跡の中でも日本遺産に認定されたのは、中世において活躍した河内鑄物師の工房が存在した地域で、日本の金属製品生産の拠点の一つだったからです。

河内鑄物師とは、河内国丹南郡を中心に活躍した鉄・銅で鍋釜や梵鐘などを製作した鑄造職人の集団です。今の堺市美原区真福寺・太井・余部や同市東区日置荘地域のことは、よく知られています。岡や丹南に居た鑄物師職人についても発掘調査によつて、その実像が少しずつ分かってきています。

岡遺跡は松原警察署岡町交番前に所在し、岡二丁目の大阪府宮松原岡住宅の建て替えに伴い、平成四年(一九九二)に大阪府教育委員会により発掘されました。住宅内では、平安時代末から室町時代(約八〇〇〜六〇〇年前)にかけて、鉄や銅製品を製作していた鑄造工房が発見されました。遺構は、鉄や銅を溶かすコシキ炉の跡やフイゴ跡などの鑄造に関するもののほか、掘立柱建物の住居跡も見つかりました。

金属を溶かす炉は、地面に直径約一mの浅い穴を掘って、その上に粘土で高さ一mほどの炉を築いていました。炉の横には、送風装置である

フイゴや鑄型を備えつけた直径約二mの穴も見つかりました。一号棟東側の芝生広場に説明板が建っています(「歴史ウォーク」32)。

一方、丹南遺跡は丹南四丁目にあたり、現在、丹南町会総合会館の建つ今池の北側です。池に西接して、高野山(和歌山県)の参詣道である中高野街道が走っています。平成十八年(二〇〇六)、同地で分譲住宅建設が行われることになりました。

松原市教育委員会が発掘調査すると、十五世紀の室町時代ごろの河内鑄物師の製作工房と考えられる遺構が多数発見されたのです(松原市教育委員会「たじひのだより」No.6、平成十九年)。

溝で区画された敷地の中に作業所と思われる数棟の掘立柱建物跡が見つかりました。建物の周辺には、炉や鑄型を作製するための粘土を採掘した土坑もありました。土坑内には、炉や鑄型の破片、鉄滓などが多数廃棄されていました。実際に炉を掘えたところは見つかりませんでした。出土した鑄型片から、鍋や釜などの生活用品のほか、茶道に使う茶釜などが確認できました。また蓮華文様の遺物もあり、仏具も製作していたようです。

今では、岡遺跡とも地上に痕跡を残しませんが、日本遺産の貴重な遺跡として、長く記憶に留めておく必要があります。